

(2025 年度 第 10 回) さくら山王自治会 役員会議事録

開催日時：2026 年 1 月 17 日 13:00～15:15

場所：山王集会所

参加：21 名 欠席：3 名（役員：24 名）

【総務部長より】

（再来週 1 月 31 日の臨時班長会の段取りについて）

現行班長 51 名、来年度は班の合併により 49 名になる。

新班長は 1 時に集まり、出席確認する。

会長より、各部の活動について簡単に説明を行う。

会長/副会長の選出については、立候補を優先。ない場合は抽選方式

各部については、定員以上の参加者がいる場合は、じゃんけんで決定、そして部長/副部長も同時に決定していただく。

各部において次年度部員に対して引き継ぎの説明をしていただく。

その後名簿作成のために班長等の連絡先などの連絡先情報を集める。メールアドレスは必ず収集する。

おおよそ 1 時間 45 分程度で終了を想定している

【総会においての議案の確認】

2 月 14 日の班長会には取りまとめた議案書の最終確認をして印刷入稿。3 月の班長会で議案書を班長から会員に配布する。

定時総会においては、椅子出しなど設営準備にお手伝いをお願いしたい。

総会議長は総務部部長の櫻井さんをお願いすることになった。

本日の役員会は、提出された各部の議案について確認を行いたい。

（行事部の議案書について）

活動欄に夏祭りアンケートの結果要約を追加していただきたい。

計画と方針欄は、もう少し具体的に記載していただきたい。自治会員に還元する企画とは、従来の夏祭り以外の企画を考えたいという主旨。

行事部として、この 1 年間やったことに対する報告と結果、課題を挙げ、解決策として行事部で議論したことを次年度の執行部に伝える様に議案書に記載していただければいいと考えている。

また開催時期や方法についても検討をすることが必要である、ことを次年度の執行部に伝えするように記載いただき、次年度の執行部がそれをどのように実施していくのかを考えていけるように。

活動に伴う次年度予算欄については、再度同様の夏祭りを開催する想定で必要な予算をあげてある。予算については今期の実績と同額を載せている。

（総務部の議案書について）

役員会の参加については、各部から部長と副部長が参加しているが、あえて各部二人参加する必要があるのかと質問があった。役員会の成立には一定数の参加条件があるが、もし二人参加を必須としないのであれば、成立させるために会則を変更してもいいのではないかとの意見も。次年度以降、役員や班長会開催が多少長くなっても、2 ヶ月に一回にするなど負担をもう少し軽減するための運営を検討してもよ

いいのではないかと意見があった。定例の役員会/班長会、各部の打ち合わせや業務を1年間通して経験してみると、相当な工数を強いられていることが確認できた。前例踏襲ではなく、今後は見直すことが大切なのではないか。併せて、役員会や班長会の意義を考えることも大切ではとの意見もあった。会議に個人的な都合で不参加の方もあり、ボランティアにより運用している自治会においては致し方ない。役員会/班長会の出席は絶対でなくてはならないという前提に置いた運営ではなく、また定数割れしていても、役員会を実施しても構わないなど、柔軟な運用をしていくことも可能ではないか。

（防災部の議案書について）

次年度の予算計上のために必要な執行に関わる費用の内訳の提出を求められた。部からは、今後山王の防災に関わる各団体や人たちが、1年間を通した活動や連携のために、年度初めに顔合わせをする機会を設けることが必要だと感じた。

（施設部の議案書について）

施設利用についての報告については、論点が分かるように手直しする必要がある。

「印刷機廃止」との記載内容を確認。修理費が一回5万円と非常に高いためとあった。その件について担当部長と会計部長との間で個人的な立ち話としてあった。印刷機の利用枚数であればコピー機で安価に運用できる可能性がある。次年度に検討していただくということで記載することに。計画と方針欄に集会所の建て替えやそれに伴う助成金について記載されているが、議題にも挙がらなかった内容で、施設部の担当領域ではないので記載はしない。昨年の総会で2035年建て替えを決議しており、それを再検討するのであれば、施設部レベルの議案としてではなく、自治会レベルの議案として取り扱うことである。

（福祉部の議案書について）

課題欄にある「みらいプロジェクト」に向けた取り組みに多く時間が費やされたことについて、どの位時間がかかったのかの話があった。今後も継続的な愛光との協業についても追記する。

（防犯部の議案書について）

監視カメラについては、担当の電気工事業者に不具合がないかどうかの定期的な点検の必要性を記載した。先日実際にあったことで、警察からの防犯カメラの映像を確認したいとの要望に対して、SDカードが外せなく、直接再生した映像を見ることで対応したとの説明があった。

（環境部の議案について）

佐倉市としては街路樹剪定の予算化はしているものの、計画的に実施してもらうためにも、自治体からの継続的な市への要望を含んだコミュニケーションは毎年することは大切である。

（書記の議案につて）

議事録書き起こしのツール導入による効率化について記載があるが、費用や手間の割に効果が薄いとのコメントあり。

（監事の議案について）

特になし

（会計部の議案について）

決算科目の整理をして見せ方を変更したいとの意見があった。

自治会として地域活動にかかる費用は切り出して、自治管理費の項目として整理したい。

各部で担当している業務に関わる費用は、各部に含めるのが筋なのではないかとの意見もあった。この見直しの目的は、会員・非会員に対して、自治会費から共益設備の電気代に対する支出が行われているなどを示すことにより、自治会会員に会費の意義を伝わりやすくしたい。それらの支出を決算書の上段に自治会管理費として分かりやすく表記することを役員会で確認したい。

現行の決算書はこのまま維持して、別紙にて上記の目的を伝えられるものを作成すればいいのでは。

【規約の変更について】

（会費について）

会費についての会則を変更して、年額 4,200 円/月額 350 円と防災関連費 500 円として、自治会費を 4,7000 円と変更する、また集会所建て替え積立金も含めて年額を明記することにしては。防災関連費 500 円は寄付金であり、寄付金を自治会が徴収するのはグレーな領域となる。この 500 円は自治会活動費用であり、実態に合うように会則を変更することを検討したい。

（他の改正案）

第6条の3に記載している、班の合併について改正の説明があり、各班の次期班長の把握の必要性について議論があった。

- 各班が会員数と班長免除数も含めて総務で全体を把握する必要がある思う。
- 各班で世帯状況を把握してアップデートするのは大変ではないか。
- 高齢化により班長免除が増えて班の合併が進むことを想定して、現状を把握をしておく必要はあるのではないか？
- また班の会員数が少ないところはすでにリスクとして把握しており、多いところまでを含めて全体を網羅する必要はないのでは？

（会則にある役員定数の改定議案について）

自治会の班数が次年度現 51 班から 49 班になることにより、一部の役員の減員が必要となるため、改定案としては、副会長を二名から一名、また監事を二名から一名へ減員することの説明があった。

- 副会長が二人から一人に変更する理由はなんなのか、一人で執行できるのか？現副会長からは一人で執行可能であるとのこと。
- 監事が二人から一人への改定については、監査をする担当が一人でいいとは思えないとの意見があった。
- この自治会であれば一人で十分であるという前提で改定案を出している。法人組織ではないため、特に複数人で監査をする必要性は低いと考えている。
- 監査は一人より二人の方が精度も高くなり、それを一人にするのは適切ではない。
- 現実的には会計監査しかしておらず、本来業務監査をすべきであるがされてない。夏祭りと自治会費に関する会計監査だけを考えれば、業務量的には一人で十分であり、もし必要であれば他の部や班長から兼務していただくとことも可能。
- そもそも会則の変更についてはまず役員会で決議するべきである。

- 会則の変更については定時総会で決議をする予定であり、役員会で決議を取る必要はないと考えている。

（他連絡事項）

会長と行事部から、次年度の夏祭りについて班長会で意見を徴収することになった。

総務部からは、班長会で新しい賛助会員についての報告をする予定である。

以上